

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2020年6月12日】第50号



児童の登校がはじまりました

6月9日(火)、農大稲花小では、児童の登校がはじまりました。2年生にとっては3月2日以来、1年生にとっては4月6日(月)の入学式以来の登校となります。始業式では、児童の元気な顔が再び見られたことの喜び、新型コロナウイルス感染防止のために児童の一人一人が新しいルールを覚えて守ることの大切さ、そして、何より友だちとともに勉強をする中で、小学校を大好きになってほしいことを伝えました。

初日と二日目は持参した昼食を食べてから下校、11日(木)と12日(金)は通常通り6時間目までの授業となりましたが、学校再開第一週は特別時間割とし、安全第一の運用を図りました。第一週が終わった週末、児童がそれぞれの家庭でゆっくり休養し、月曜日から再び元気に登校できるよう、保護者の皆様のご協力もお願いいたします。

新しいルールの中で

本校では児童の登校を再開するにあたって、新型コロナウイルス感染防止を第一に、様々な特別措置を策定し、実行しています。正門入り口から昇降口、そして教室までの廊下や階段を学年ごとに指定し動線交差を避けること、学年を3分割して行うより少ない人数での授業、学級ごとに手洗い場を指定しての混雑緩和、ソーシャル(フィジカル)ディスタンスを促すマークや掲示の設置、集団が入れ替わるごとに行う机や椅子の消毒、児童の下校後に行う手すり、ドア、スイッチなど共用部の消毒などがその例となります。校内でのマスク着用や手洗いの励行は言うまでもありませんが、予備のマスク持参、マスクやティッシュゴミを自分で持ち帰るためのビニル袋持参なども実施しています。グラウンド、体育館、図書館の利用も新しいルールの下で動いています。本当は楽しく食べたい昼食も、しばらくは静かに食べることに慣れなくてはなりません。

とはいえ、児童を萎縮させることなく、自然なマナーとして適切な行動をとれるように指導していくことは、教員の腕の見せどころでもあります。自然なマナーとして適切な行動をとれるようになるということは、児童が自らの安全を守れるようになる第一歩ともいえます。保護者の皆様とも連携しながら、児童が安全に楽しく小学校で過ごせるよう、これからも努めてまいります。

オンライン保護者会

児童の登校再開を目前に控えた5月30日(土)に、農大稲花小ではオンライン保護者会を開催いたしました。一斉臨時休業中も、早い時期からワークや動画ほか学習教材の配信、Zoom学級会やZoom英語の開催などを続けてきた本校ですが、学校再開前に保護者の皆様に、本校における新型コロナウイルス感染防止策などについて校長からご説明させていただきました。さらに、学級ごとに担任と保護者の懇談が、これもまたオンラインで行われました。保護者の皆様からは、在宅学習における児童の様子、学校への期待をお聞かせいただきました。教職員にとっても、オンライン保護者会は、保護者の皆様や児童の学校再開への大きな期待を改めて認識する貴重な機会となりました。ご参加くださった保護者の皆様に改めて御礼申し上げます。

大きく育て イネの苗

6月12日(金)、農大稲花小の全児童は、イネの苗をおみやげに持って下校しました。神奈川県厚木市にある東京農業大学伊勢原農場棚沢圃場から東京農業大学国際農業開発学科の入江満美准教授が、農大稲花小の子どもたちへと、届けてくださったものです。イネの研究をしている棚沢圃場では、「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「はるみ」、「さとじまん」、「喜寿もち」、黒米…….とさまざまな品種が扱われているそうですが、その中からプレゼントしていただいたのは「はるみ」という品種です。味もよく気象変動にも耐えられると期待の品種とのことでした。一斉臨時休校によって田植えができなかった子どもたちですが、まだやわらかいイネの苗に触れ、その成長を観察しながら、秋にはまたそろって稲刈りができることを楽しみにしたいものです。

東京農業大学稲花小学校
校長 夏秋 啓子